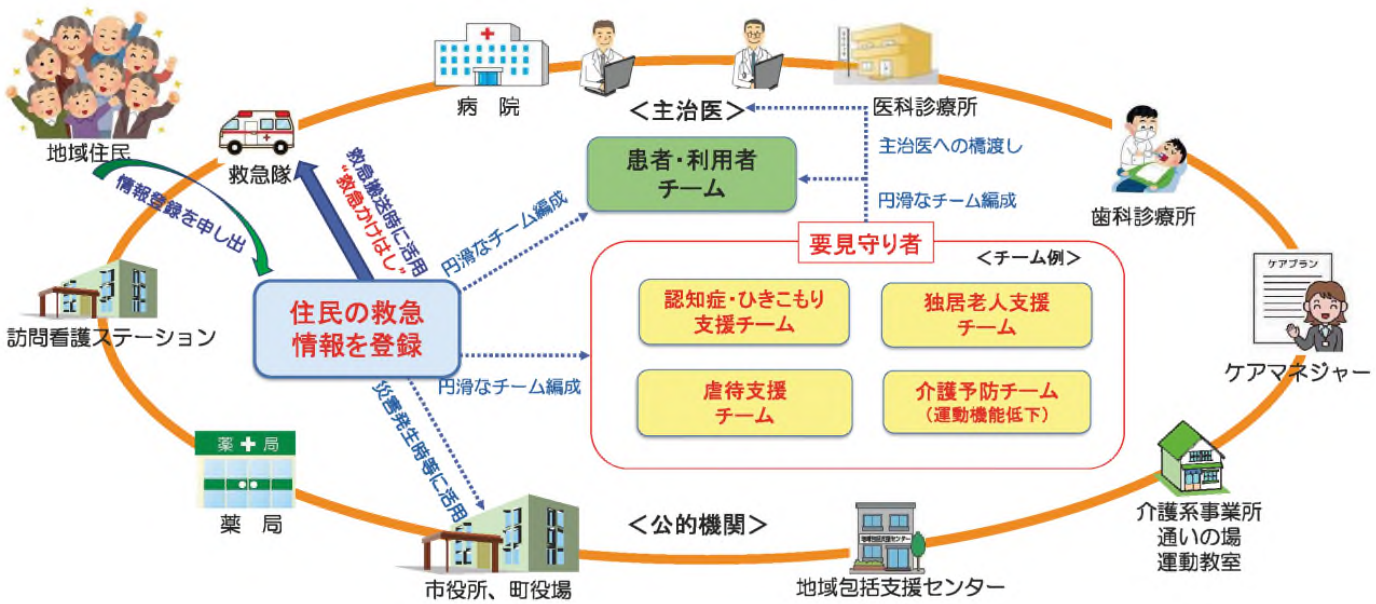
資料11

シズケア＊かけはし「静岡県地域包括ケア情報システム」
全 体 概 念 図

～静岡県内の医療・介護の現場にITネットワーク型の情報連携システムを構築～
かかりつけ医、訪問看護師、ケアマネジャー、病院主治医、病院看護師、MSWを含む地域医療連携室スタッフ、そして地域包括支援センター、地域医師会、行政等、多職種・多機関における連携を促進します。

地域包括ケア対応型システムのイメージ ～令和３年度システム改修後～



一般社団法人　静岡県医師会

シズケア＊かけはし

救急かけはし機能

『シズケア＊かけはし』に登録された住民の救急情報を、救急隊員や搬送先病院が参照し、円滑な救急搬送につなげます。

緊急連絡先・キーパーソン、調剤情報が救急情報に登録できる！

救急隊員が現場到着前に情報参照できる！

搬送先病院は隊員到着前に現場の写真やビデオ、メモも参照できる！

『救急ショット』アプリ

救急隊員と搬送先病院はスムーズに救急情報を共有できます。

119番により出動

＜検索結果一覧市町対象者＞

＜救急情報シート＞

救急隊が到着前に
確認できる！

現場到着

現場で対象者の様子を記録、
搬送先選択できる！

＜写真・ビデオ・メモを送る＞

＜搬送先選択＞

搬送先病院到着

病院も対象者の情報を事前に確
認できる！

救急情報シート

初回記入日	初回記入者	本人との関係

Sample

No.	変更日	変更者	本人との関係
1			
2			
3			

ご本人の基本情報　※太枠の内容は必須です

ふりがな		性別	年齢	生年月日
氏名				
郵便番号	〒			
住所			電話番号①	
			電話番号②	

血液型	A・B・O・AB・不明 型　Rh ＋・－	保険種類	国保・社保・後期高齢・その他（　　）	保険証 記号・番号	
職場・学校				町内会	
職場・学校 電話番号				避難場所名	
避難時必要な 支援・配慮					

緊急連絡先・キーパーソン　※太枠の内容は必須です

No.	ふりがな 氏名	本人との 関係	本人との 同居の有無	住所	電話番号① 電話番号②
1					
2					
3					

かかりつけ医療機関

1	病院・医院名			医療機関 電話番号	
	診療科		担当医	病名	
2	病院・医院名			医療機関 電話番号	
	診療科		担当医	病名	
3	病院・医院名			医療機関 電話番号	
	診療科		担当医	病名	

居宅介護支援事業所

事業所名		電話番号		担当者	
住所				担当者 電話番号	

民生委員

No.	氏名	電話番号
1		
2		
3		

介護・障害情報

障害	手帳の有無	要介護認定	介護認定				障害者手帳	障害者手帳等級
有・無	有・無	有・無	要支援	1・2	要介護	1・2・3・4・5	有・無	級
精神手帳	精神手帳等級		療育手帳	療育手帳等級	障害の種別			
有・無	1・2・3 級		有・無	A・B	視覚・聴覚・言語・上肢・下肢・体幹・内部			
障害の状況								

ご本人の医療情報

アレルギー	有・無	常用薬					
環境アレルギー	ハウスダスト・ダニ・花粉症・その他（　　）		輸血	有・無	インシュリンの投与	有・無	
食物アレルギー	そば・たまご・その他（　　）		酸素の使用	有・無	透析治療	有・無	
薬アレルギー	造影剤・その他（　　）		ペースメーカー	有・無	補聴器	有・無	

現病歴	①	②	③
既往歴	①	②	③

	手術歴①	手術歴②	手術歴③
年月	年　月	年　月	年　月
病名など			

麻痺	右上肢・右下肢・左上肢・左下肢	医療ニーズの注意事項	

その他

歩行介助状況	自立・介助歩行・杖・歩行補助用具 車椅子（自走/介助）・ストレッチャー	排泄介助状況	洋式トイレ・ポータブルトイレ おむつ・尿器・ストマ
食事介助状況	常食・粥食・きざみ とろみ・ミキサー食・経管栄養	食事の注意事項	

短期記憶	問題なし・問題あり	日常意思決定の認知能力	自立・いくらか困難・見守りが必要・判断できない
意思伝達能力	伝えられる・いくらか困難・具体的要求に限られる・伝えられない		
認知症の周辺症状の詳細	幻視幻聴・妄想・昼夜逆転・暴言・暴行・介護への抵抗・徘徊・火の不始末 不潔行為・異食行動・性的問題行動・その他（　　）		
心身の状態の注意事項			

ご本人の意向

救急隊への伝言など		本人の意思	DNAR（あり・なし・不明）
特記事項			

確認欄

確認日	①	②	③	④
	⑤	⑥	⑦	⑧

開発のきっかけは・・・
「救急医療情報キット」の電子化

救急医療情報キットとは・・・
救急隊員が搬送の際に確認し迅速な救急活動に活用するために必要な情報を予め記入し、容器に入れて冷蔵庫等に保管する情報シート等

令和２年３月に県健康福祉部地域医療課が県内市町の在宅医療・介護連携推進事業担当課に対し、「救急医療情報キット」の活用状況を調査

＜結果＞
県内３５市町中３３市町が回答
・救急医療情報キットを活用中　２８市町
・　〃　未活用　５市町

ただし、キットの紛失や、たとえ見つかっても情報が古くて活用できないなど、必ずしも運用がうまくいっていない実態が明らかになった

「救急医療情報キット」の電子化の検討に着手

「救急かけはし機能」の運用（概要）

運用エリア		市町単位 ※　運用を希望する市町は、シズケアサポートセンターに対し「救急かけはし」の運用を申出
救急情報の登録	対象者	当該市町に住民登録のあるすべての住民 ※　運用市町の判断で年齢や対象地区などを限定した運用も可能
	登録方法	住民から提出のあった登録申出書（情報利用の同意書も兼ねる）の記載内容を「シズケア＊かけはし」に入力 ※　データ入力は、運用市町の「シズケア＊かけはし」登録施設で可能 ※　登録申出書の受付場所やデータ入力については、運用市町で任意に決定 （例）市町で一括受付・入力　or　一部の登録施設で受付・入力を代行　など
アプリ「救急ショット」の活用	救急隊	「シズケア＊かけはし」の登録施設であって、運用市町を管轄する消防本部 ※　アプリ「救急ショット」を利用するためのタブレット端末の配備が必要
	医療機関	「シズケア＊かけはし」の登録施設であって、運用市町との協議により「救急かけはし機能（救急ショット）」を活用することとなった医療機関 ※　当該市町外に所在する医療機関であっても、これまでの救急搬送の実績により当該市町と協議の上、活用することが可能 ※　アプリ「救急ショット」を利用するためのタブレット端末の配備が必要

シズケア＊かけはし 登録申出書 イメージ（現在、調整中）

〇〇〇〇〇〇　宛

私は シズケア＊かけはし について登録説明書に沿って説明を受け、その目的および利用方法などを理解しました。私の個人情報が医療・ケアや救急搬送等で必要な際、シズケア＊かけはし で共有されることに同意します。

西暦　　年　　月　　日

本人の名前：

（代筆した方の名前・関係を記入）

代筆者の名前：　　（本人との関係：　　）

【本人情報欄】　※シズケア＊かけはしのシステム上、入力が必要な項目

共有される基本情報	フリガナ		性別	男　・　女
	氏名		電話番号	
	住民票の住所	〒		
	お住まいの住所	（住民票と同じ住所の場合、「同上」のみ記入） 〒		
	生年月日	明・大・昭・平・令　　年　　月　　日（　　歳）		
	緊急連絡先 ※日中に連絡がとれるところ：携帯電話など ※1名でも登録できます。	（フリガナ） 氏名	（本人との関係：　　） 電話番号	
		（フリガナ） 氏名	（本人との関係：　　） 電話番号	

【医療・ケア情報欄】　※市町の裁量で、項目の設定が可能

（項目例） かかりつけ医療機関	
現病歴	
常用薬	
本人の意向 （DNAR）	
〇〇〇〇〇	
〇〇〇〇〇	
〇〇〇〇〇	

救急かけはし機能の運用（関係機関の役割）

＜市役所・町役場＞
住民の救急情報の登録を管理し、運用を統括する

救急情報の登録方法の検討	登録申出書の受付場所、登録項目の選定、情報の入力方法、情報の更新方法・頻度　など ⇒消防本部や救急患者受入医療機関との調整
運用の申出	シズケアサポートセンターへ救急かけはしの運用を申出 ⇒当該市町の域内で運用できるようシステムを調整
広報	地域住民に対し、救急情報の登録を働き掛け
運用の開始	登録申出書の受付・入力、運用状況の確認と必要に応じた調整

＜救急隊＞
登録された救急情報を活用し円滑に救急搬送

事前準備	・消防本部単位でシズケア＊かけはしに施設登録 ・タブレット端末（救急ショット利用）の配備
救急現場での活用	・救急情報登録者の検索 ・写真、ビデオの撮影・登録 ・搬送先医療機関の指定

＜搬送先医療機関＞
救急ショットを利用し、治療に役立つ情報を入手（救急隊が指定した医療機関）

事前準備	・医療機関のシズケア＊かけはしへの施設登録 ・タブレット端末（救急ショット利用）の配備
治療に向けての情報収集	・搬送患者の救急情報の確認 ・救急隊の撮影した写真、ビデオの確認

「救急かけはし機能」導入の効果と課題

【効果】「救急医療情報キット」との比較

「救急医療情報キット」の課題	「救急かけはし」での改善点
キットの管理（紛失の可能性）	**改善**（個々の管理が不要）
情報入手者の範囲（救急隊員のみ）	**改善**（搬送先医療機関にも拡大）
情報更新の手間（情報の陳腐化）	**一部改善** ・救急情報の登録者が医療・介護サービスを受けることとなり、「シズケア＊かけはし」上で医療・ケアチームを編成した場合は、チーム員による情報の更新が可能 ・電子お薬手帳登録用QRコードを活用して、登録施設となっている薬局で最新の服薬情報の追加が可能
得られる情報の範囲（キットの記載内容のみ）	**改善**（アプリ「救急ショット」を活用して、救急現場で撮影した写真やビデオを搬送先医療機関で確認することが可能）

【課題】

救急情報登録住民の拡大（救急出動時の登録者検索におけるヒット率のアップ）	・市町による広報の強化 ・シズケア＊かけはし加入施設や自治会等による登録の働き掛け ・要介護認定申請時など、登録の仕組みの確立